

# 授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和3年7月発行  
西部教育事務所

今回は大方中学校で行われた、5月17日  
(月)教材研究会・6月10日(木)授業研究会の様子を紹介します。



西部管内の  
講座関係のHP

【単元名】「説得力のある構成を考えよう～スピーチで社会に思いを届ける～」(第3学年) 【授業者】木俣 一乃教諭(黒潮町立大方中学校)

## 中心となる指導事項

【思考力・判断力・表現力等】A「話すこと・聞くこと」(1)イ自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫するこ

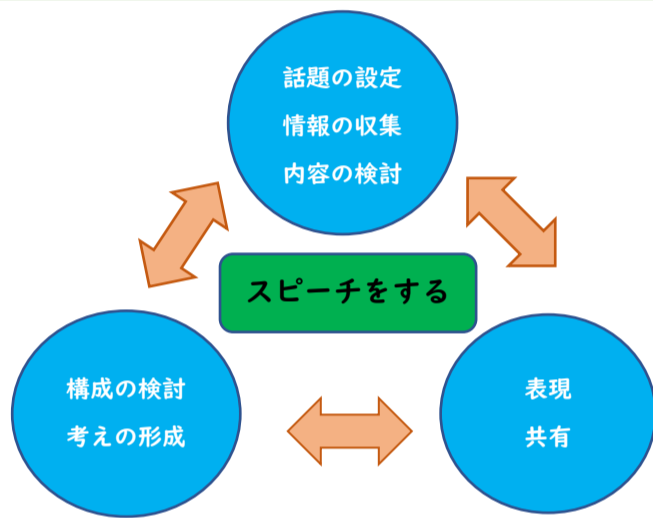
## 協議内容

- ① 育成したい資質・能力を付ける単元になっているか。
- ② 生徒に社会生活の中から、どのように話題を決定させるか。

# 教材研究会

今年度から完全実施となった学習指導要領で明確化された、国語科が目指す「正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成に向けて、大方中学校が提案してくれた「話すこと・聞くこと」の単元について検討しました。

「話すこと・聞くこと」における学習過程には、「話題の設定・情報の収集・内容の検討」「構成の検討・考えの形成」「表現・共有」があります。私たち教師は、単元ゴールに向けてこの学習過程を「見方・考え方」を働かせ、生徒自身が行きつ戻りつしながら推し進めていける資質・能力を育成できるような授業を構想することが求められます。



「話すこと」の領域における学習過程のイメージ

## 協議からのポイント1：つけたい力を明確化

授業づくりを行う際、重要になるのは「教科書の何を教えるか」ではなく、育成したい資質・能力は何であるかを明確にし、「何ができるようになるか」を考えることです。その基本は「学習指導要領 解説 国語編」を丁寧に読み解釈することです。学習指導要領で示された資質・能力(指導事項)を基に、単元終了時の生徒の姿をいかに具体化できるかがカギとなります。

## 協議からのポイント2：生徒にとって自分事になる言語活動

第2学年からは、題材を求める範囲が日常生活から社会生活全般へと広がってきます。大方中学校国語科部会でも、生徒にどのように課題をもたせるのが悩みました。学習の主体である生徒が、自ら学習過程を推し進めていくためには、生徒の実態に応じた必然性のある課題や、自分事になる言語活動の設定が重要になります。

## 協議からのポイント3：言葉による見方・考え方を働かせる工夫

国語科の学びを深めるためには、生徒が何に注目し、どのように考えていけば課題解決に向かうのか「言葉による見方・考え方」がカギとなります。これまでに身に付けている資質・能力を系統表で確認し、既習の学びを生かしながら、当該学年で獲得する新たな見方・考え方を具体化し、それを生徒から引き出したり、自覚させたりするための問いや板書などの工夫を考える必要があります。

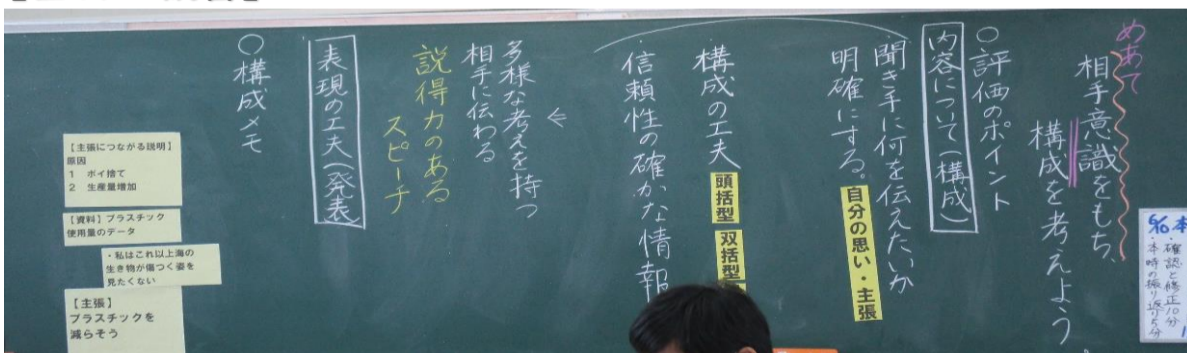
## 教材研究を受けて改善を行った点

○文化祭等で多数の来場者に、スピーチを録画したものを見せて思いを届けるという相手意識を持ち、SDGsという話題を入り口として自分が伝えたい内容を考える。

## 授業参観の視点：本時で育成したい資質・能力が身に付いたか。

- ・本時まで学習した「話の構成」について、より良いものに検討し直しているか。
- ・信頼性の高い情報を根拠にしてスピーチの内容を考えているか。

## 【当日の板書】



## ICTの活用



タブレット端末の録画機能を使い、自分のスピーチがどのように成長していくのかを可視化できるように工夫されていました。

## 協議省察の協議からのポイント1：「相手意識」

めあても示した「相手意識」を常に意識し続けていくことが大切ですが、授業が展開されていく中で、生徒同士が助言をし合う場面では、話し方の工夫に視点が移ってしまいました。授業後の協議の中で先生方から、「相手に応じて」どのような構成にし、根拠をもって伝えれば伝わるのかということをより具体的に考えられるように、まずは「伝える相手」について知ることが必要ではないかという意見が出されていました。

## 協議省察の協議からのポイント2：「学習過程の工夫」

協議のもう一つのポイントは、「内容の検討」でした。生徒の評価のポイントが話し方のスキルに集中してしまった原因の一つには、それぞれに選んだテーマが広すぎて、友達が選んだ情報が主張を支えるものとして妥当なのか、話の構成はどうかアドバイスが難しかったのではないかと考えられました。生徒の発言や記述内容を見極め、場合によっては学習過程を戻し、再度じっくりと「内容の検討」を行うことも必要です。

## 参加者の声

○「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の単元において相手意識をもたせることの重要性を改めて考えることができました。子どもの意欲を引き出すために、課題設定・相手意識について、よく考えて授業を計画していきたいと思えます。○つけたい力を明確にし、それを生徒と共有することが大切だと改めて感じました。また、相手意識をもつために、対象となる相手を明確にしておくことで、目的意識をもって学習に臨めると思いました。



# 授業研究会